

GMO INTERNET GROUP

2022年12月期 通期決算説明会 質疑応答の要約

2023年2月13日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループ代表の熊谷、CFOの安田、GMOフィナンシャルホールディングス代表執行役社長の石村より回答させていただきました。また、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●連結

【Q1】 単4Q実績について、どう評価しているか？各セグメントにおいて積極的に投資を行なったようだが

【A1】 インフラ、広告・メディアを中心に上期の貯金を使って、投資を実行しました。既存事業が順調に推移している中、タイ証券事業の引当金計上は想定外の案件となりました。

●インフラ事業

【Q2】 イエラエのグループジョインによるPL影響はどうなっているか？

【A2】 イエラエについてはこの2QからPLヒットが始まっています。単4Qは売上8億ほどとなったものの、投資先行であることから、のれんなどの償却2億円を含めて、4億強の利益押し下げ要因になっています。なお、この数字については、グループジョイン時の想定線で推移しております。SaaSプロダクトの開発を通じ、中期的なシナジーの創出を図ってまいります。

【Q3】 ネットde診断の拡販に伴うコスト、リターン及び有償化のタイミングについて教えて欲しい。

【A3】 タイミングについて、現時点では決めているものはなく、様々なKPIを見ながら判断していきたいと考えています。ネットde診断については、1,300万の既存のお客さま、新規のお客さまに全付けしていきたいと考えています。同様のマーケティング戦略を行っているGMOサイン含め、両サービスともなくてはならない、かつ既存の顧客基盤にクロスセルができるという意味で、当社ならではのサービスであり、有償化した際の業績インパクトについてはご期待いただけるのではないかと考えています。

【Q4】 サービス維持調整費用について、どれくらいのコスト増があり、それが今後どう解消されていくのか？

【A4】 22年についてはドメインの仕入れコスト増を中心に、数億程度の影響がありました。今後の電力代、サーバー調達費の高騰を踏まえ、サービス維持調整費を導入することとしました。これに伴い、売上が上がるがコストも同様の動きをすると想定しており、利益への影響はフラットだと考えています。

●金融

【Q5】 タイ証券事業における引当金繰入額について、追加発生の可能性はあるのか？規模、確度についてコメントが欲しい。

【A5】 期末の債権残高約79億円に対して、すでに株式を担保としていただいているため、担保が不足している差額について、貸倒引当金繰入額35億円を計上しています。受け入れている銘柄の株価が下落した場合には増えるという可能性もあります。回収については法的手段も含め対応を進めております。

GMO INTERNET GROUP

●その他

- 【Q6】 空の移動革命に向けた進捗を教えてください。また、先日、気球型宇宙船による成層圏宇宙旅行へというリリースがあったが関係性はあるのか？
- 【A6】 「空飛ぶクルマ」については、2025年の大阪万博をきっかけに実用化が進むと考えており、当社グループはSSLセキュリティを通じて空の安心に貢献してまいります。気球型宇宙船は、事業化を検討するにも、まずは経験してみたいというのが目的であり、両者は別のお話と捉えていただければと思います。
- 【Q7】 決算期変更について社内でどのような議論があったのか？
- 【A7】 上場企業の多くはほとんどが3月決算であり、またグループ内で異なる決算期の会社があるデメリットなども踏まえ、議論をスタートしました。その後、金利環境の急激な変化による調達環境の変化に適切に対応するために決算期変更を見直しました。

以上